2016年度 学習院大学史学会総会

— 9：30 ～ 10：45 小講堂(学習院創立百周年記念会館3階) —

第32回 学習院大学史学会大会

— 11：00 ～ 18：00 学習院創立百周年記念会館 —

2016年6月4日(土)

総会　9：30 ~ 10：45

大会　11：00 ~ 18：00

▶第1部　11：00 ～ 12：00

【第1会議室】 徳川吉宗による「アーカイブズ政策」と紅葉山文庫

上條 静香(学習院大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】 後漢時代の国家と民衆 —「恩信」を媒介として —

長谷川 隆一(早稲田大学大学院博士後期課程)

▶第2部　13：00 ～ 14：00

【第1会議室】 内閣情報機構の創設と運用 — 内閣官僚・横溝光暉の主導体制 —

西山 直志(一橋大学大学院博士後期課程)

【第3会議室】 結節点としての中世都市ヴォルムス

加賀 沙亜羅(首都大学東京大学院博士後期課程)

▶第3部　14：10 ～ 15：10

【第1会議室】 前漢時代における周辺民族の列侯封建と漢朝政治

邉見 統(学習院大学文学部史学科助教)

【第3会議室】 越境し、連鎖する記憶の制御は可能か

—南アフリカの身体返還運動をめぐるアーカイブズ史的考察から—

清原 和之(学習院大学大学院アーカイブズ学専攻助教)

▶講演　15：30 ～ 18：00　小講堂

◎近代の遺産と歴史学の未来　福井 憲彦(学習院大学教授)

◎比較の中の明治維新 — その普遍性と特殊性 —　三谷 博(跡見学園女子大学教授)

▶懇親会　18：00 ～ 20：00　第1～3会議室

学習院大学史学会

(http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/)

学習院大学文学会共催

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
学習院大学文学部史学科研究室内
お問い合わせ：shigakukaitaikai@yahoo.co.jp

第一部

上條 静香　徳川吉宗による「アーカイブズ政策」と紅葉山文庫

江戸幕府8代将軍徳川吉宗が公文書の調査、整理、システム化政策を展開したことは既に先行研究において指摘されているが、同時に吉宗は紅葉山文庫の充実を図り、文庫を積極的に利用している。これは紅葉山文庫が「徳川家のアーカイブズ」として機能することを吉宗が期待していたためである。吉宗は「アーカイブズ政策」を進めると同時に紅葉山文庫を充実させることで、必要な文書・記録類を整理・保管し、必要な時にそれらを参考にすることができる体制を作り上げたのである。

長谷川 隆一　後漢時代の国家と民衆 ―「恩信」を媒介として―

人類の歴史の中で、国家と民衆の関係性は長く議論されてきた。今回は、後漢中後期に頻発した反乱事例に注目し、それに対し後漢はどのように関与したのかについて「恩信」という分析概念を用い検討する。さらに、民衆側は「恩信」に対しどのようにリアクションしたか、という検討を加えることにより、当該時代の国家と民衆の関係性について一視座を提示する。

第二部

西山 直志　内閣情報機構の創設と運用 ―内閣官僚・横溝光暉の主導体制―

1936年７月に内閣へ設置された情報委員会から、翌年の内閣情報部への改組を経て1940年２月まで、この新たな内閣補助部局を主導したのは、内閣官僚・横溝光暉であった。そこで、この横溝主導期の内閣情報機構の人事・組織、事業や役割などについて、特に主体的に推進した国民精神総動員運動との関連に注目しながら検討してみたい。

加賀 沙亜羅　結節点としての中世都市ヴォルムス

中世のライン・マイン地域において、都市ヴォルムスは経済活動・帝国国政・都市外交の舞台の1つとして見逃せない役割を果たした。ライン河左岸に位置するこの都市の歴史は、古代ローマ時代に遡る。カロリング時代には王宮が置かれ司教都市として発展を遂げると、国王との関係を深め経済的特権を獲得した。帝国会議の開催地として何度も選ばれていることからも、その重要性が判る。また、13世紀に結成された都市同盟では、近隣の都市マインツと並び主導的役割 を担った。

これまでドイツ中世都市の研究分野においては、領主や国王との関係といった国制史的観点および自治権獲得の過程といった起源論的観点が多数を占めていた。一方で、近年では地域史・外交史の観点も加わっている。本報告では特に周辺都市とのネットワークに注目し、当該地域における都市ヴォルムスの役割を考察する。

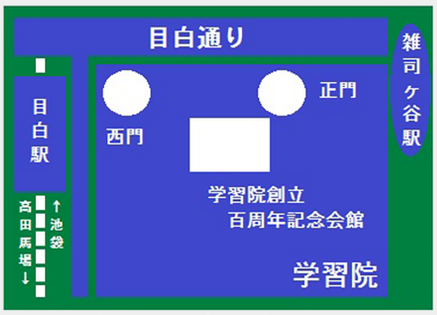
第三部

邉見 統　前漢時代における周辺民族の列侯封建と漢朝政治

列侯は漢代二十等爵制最上位の爵位であり、諸侯王とならんで諸侯の１つとされた。列侯には功臣や外戚、丞相就任者などの有力者が封建された。本報告では、前漢時代に周辺民族出身で列侯に封建された人物を中心に検討する。漢朝と周辺民族との関係および漢朝内部の政治状況の検討から、周辺民族出身者の列侯封建が前漢政治史においていかなる意義を有するのかを明らかにしたい。

清原 和之　越境し、連鎖する記憶の制御は可能か ―南アフリカの身体返還運動をめぐるアーカイブズ史的考察から―

本報告では、南アフリカのコイサン人女性サラ・バールトマン(1789-1817)を取り上げ、そのアーカイブズ史的考察を行なう。19世紀初頭の英仏において見世物的人気を博したサラは、20世紀末の南アにおける身体返還運動によって、再び想起されることとなる。その歴史的・越境的な記憶の管理をめぐるせめぎ合いをアーカイブズ的視点からたどり直し、多元的な集合記憶の制御は可能か、という問いへの一応答を試みたい。



JR山手線「目白」駅下車、徒歩2分
東京メトロ副都心線「雑司ヶ谷」駅下車、徒歩7分

学習院大学史学会

講演

福井憲彦
近代の遺産と歴史学の未来

三谷 博
比較の中の明治維新
― その普遍性と特殊性 ―